

「ことばは時代とともに変化していいのでは？」

— 「行くです」と 「ら抜きことば」 —

飯久保 博幸 (峡中地区)

「行くです」を例にして

ある研修会に参加した時、資料にこう書かれていました。

「です」は明治以降に東京に広がった。初めは「N (名詞) +です」だけだったが戦前から「A (形容詞) +です」が普及した。まだ、「V (動詞) +です」(行くです)はない。ただし、「でしょう」は「Nでしょう・Aでしょう・Vでしょう」がok。勧誘との区別の発達か(「行きましょう」勧誘/「行くでしょう」推量)。そのうちに「行くです」も普通に耳にするようになるのだろうか。(つぶやきには「だろう」)

この資料からも時代の変遷とともに、言葉が変化することを「です」を例にして示唆しています。「V+の+です」(行くのです)は定着しているのではないのでしょうか。

また、つい先日、私が出演した「認知症対応劇」でも、美代子さんのせりふに「V+です」がでてきました。「寄り添うようにしています」「受け入れてあげようと思っています」「叱るのはよくないと思うですよ」「テレビを見ないようにしています」「夜中に騒ぐこともなくなるです」「マッサージするです」「何、考えているですか」です。

「ら抜きことば」を例にして

著名なUさんが最近、若者に「ら抜きことば」が多いことを嘆き、日本語を正しく使ってほしいと訴えていました。日本語力の低下ととらえるか、ことばの変化ととらえるか、見解がわかれるところです。

ここ1年間、テレビに見られた（聞けた）「ら抜きことば」を列挙します。音声と字幕での対応がしやすいので、容易にわかります。もちろん、字幕のことばが正しいです。人が発したことば——「見れる」「見れない」「来れる」「来れない」「出れる」「止めれる」「着れる」「食べれる」「見せてあげれる」「届けれる」「乗り越えれる」「変えられる」「つけれない」「してあげれなかった」「寝れない」「食べれない」「抜けれない」——もちろん、誤った例で、可能形がほとんどです。

その人が言っている意味は場面からわかります。聞いている私は耳障りな感じがしませんが、ことばに厳格な人には、この乱れは耐えられないかもしれません。あなたはどう思いますか。

参考までに：

1. 「られる」の3用法（可能、受け身、尊敬：例文を作ってみて下さい。受け身では、損害、罰などマイナス面より、ほめられるようなプラス面の例文が好まれているようです。）

2. 「ら抜きことば」のチェック方法

○「～しよう」の形に変えてみて「よう」になるなら「ら」は必要

投げる→投げよう 投げられる

開ける（あける）→開けよう 開けられる

○「～ろう」の形に変えてみて「ろう」になるなら「ら」は不要

おまけ：「次のことばの例文を作りなさい」 「どんより」「もし～なら」「あたかも」
本当にあった話です。

「うどんよりそばがよい」「もしもし、ならさんですか」「冷蔵庫に牛乳があったかも」